

アゴラの新しい姿を求めて

朝日新聞編集委員
高橋真理子

朝日新聞
DIGITAL

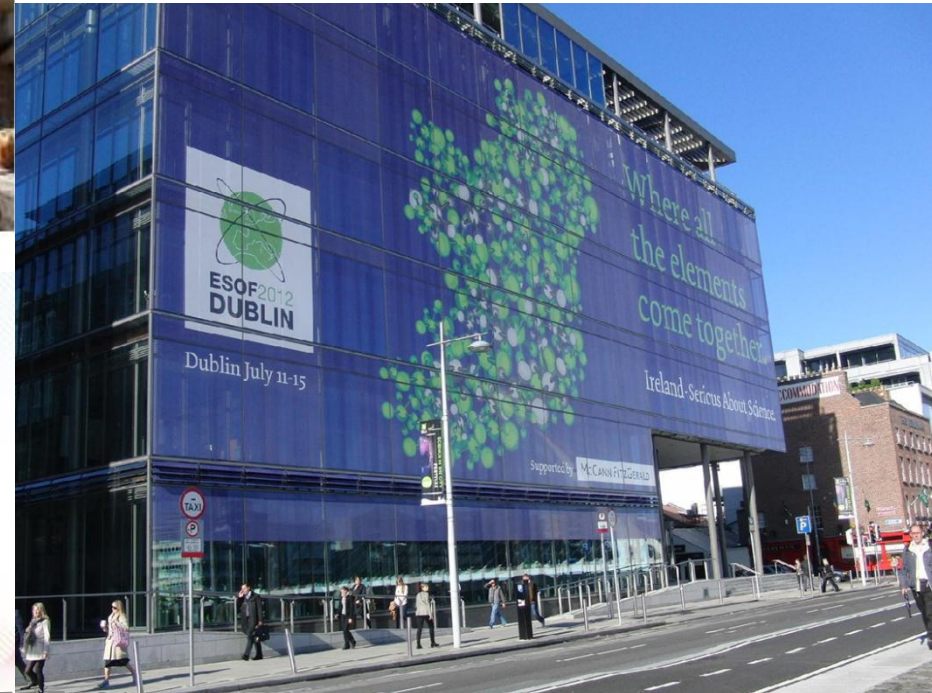
WEBRONZA

ユーロサイエンスオープンフォーラム(ESOF)



2006年ミュンヘン

2012年ダブリン



サイエンスアゴラって？

サイエンスをとおして
みんながつながるひろば

日本に欠けているもの

- 科学者による科学のための分野を超えたオープンな議論の場
- 多様性
- アジアでの組織的な共同研究態勢

目標は何？

サイエンスをとおして
みんながつながるひろば



みんながつながって
サイエンスを良くするひろば

そのためには

- 研究界に多様性が必要。
- その多様な関係者（研究者、リサーチアドミニストレーター、ライセンシングアソシエイト、研究資金提供機関、行政、市民、科学ファン）がアゴラを活用するという意識を持つ。
- アゴラでの議論が何かを変えたという実績も必要。
- 実績を（関心のない層にも）広く知らせることも必要。